

様式第2号（政務活動実施報告書）

令和8年4月30日

井原市議会議長

山下 憲雄 様

井原市議会議員 荒木 謙二

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	令和8年4月27日 13:30~16:00 令和8年4月28日 10:00~16:00
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	東京都豊島区東池袋 1-20-10 としま区民センター 404号室 講師；①野澤 高一 氏 ②講師；大山 典宏 氏
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	【廣瀬行政研究所】 ①・公職選挙法とSNS時代の政治活動について ②・メディアが注目する、行政職員が唸る質問をするコツ： 社会福祉を軸に考える ・地方議会から始まる「社会保障×教育」の新たなアプロ チ
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	別紙①のとおり
5. 活動内容	別紙①のとおり

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。
2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。



## 【研修概要】

4月27日

講師：野澤 高一（中央大学 経済研究所 客員研究員 ・ 選挙プランナー）

公職選挙法と SNS 時代の政治活動について

1. 公職選挙法×SNS 時代のアップデート
2. 動画時代のコンプライアンスと外注リスク
3. YouTube・TikTok 等の動画 SNS 運用の原則
4. ネット選挙戦に見る情報流通構造の変化
5. これから取り組むべき実務戦略

## 【所感】

公職選挙法が想定していない SNS 時代の情報環境において、発信の自由度とコンプライアンスの両立が重要性を増していると感じた。特に動画活用は効果が大い一方で外注管理のリスクも高く、適切な体制整備が不可欠である。また、アルゴリズムによる情報流通の変化を踏まえ、候補者の語り方や媒体ごとの役割を設計する戦略的視点が求められると強く実感した。

【研修概要】

4月28日

講師：大山 典宏（明治大学専門職大学院ガバナンス研究科専任教授）

・メディアが注目する、行政職員が唸る質問をするコツ：社会福祉を軸に考える

- 1.行政職員からみた「嬉しい質問」「厳しい質問」
- 2.社会福祉分野における主要テーマを概観する
- 3.「誰が答弁を書いているのか」を知っていますか
- 4.メディアが注目する、行政職員が唸る質問をするコツ
- 5.ケーススタディ：地方議会とメディアが行政を変えた瞬間
- 6.現役議員が語る「大学院の学びを生かした一般質問」

【所感】

行政職員が「嬉しい」と感じる質問と「厳しい」と受け止める質問の違いを、社会福祉分野の構造理解と結びつけて整理できた。特に、答弁作成の実態を踏まえることで、質問の質は行政内部の仕組みへの理解と直結することを実感した。また、メディアが注目する視点と行政が唸る論点設定には共通する“課題の本質を突く力”が必要であり、地方議会とメディアが行政を動かした事例はその象徴だった。現役議員の実践も含め、大学院での学びを政策形成や一般質問にどう生かすかを具体的にイメージできる有意義な内容だった。

【研修概要】

4月28日

講師；大山 典宏（明治大学専門職大学院ガバナンス研究科専任教授）

・地方議会から始まる「社会保障×教育」の新たなアプローチ

1. 政治不信に直結する社会保障制度
2. そもそも社会保障とは何だろう
3. 注目される「社会保障×教育」
4. 地方議会にしかできない社会保障へのアプローチ
5. ゲーム開発者が解説：話題の『社会保障ゲーム』とは？
6. 【対談】『社会保障ゲーム』開発者×社会福祉政策研究者

【所感】

社会保障制度が政治不信と深く結びつく構造を再確認するとともに、その本質を理解するための視点が整理された。特に「社会保障×教育」という新たな切り口は、制度の持続可能性や地域課題の解決に向けた重要なアプローチとして印象に残った。また、地方議会こそが住民に最も近い立場から社会保障を具体化できる場であるという指摘は、議会の役割を再認識させるものだった。社会保障ゲームの開発者と研究者の対談は、複雑な制度を市民にどう伝えるかという課題に対する実践的な示唆に富み、政策理解を深める新しい手法の可能性を感じた。